

運転技能検査の内容の充実（案）

高齢運転者による交通事故の特徴や、運転技能検査の合格者の交通事故等に係る追跡調査の結果等を踏まえると、運転技能検査の内容の充実等に係る主な検討事項は、以下のものが挙げられる。

主な検討事項

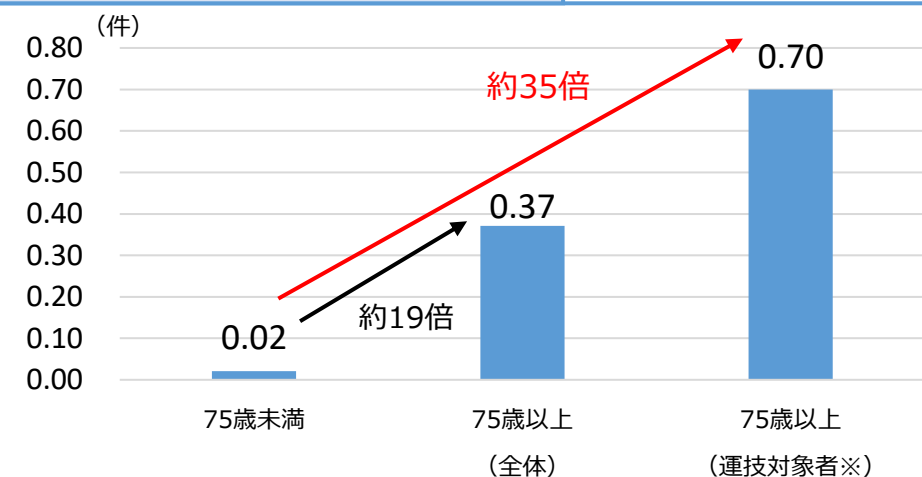
- ① 運転技能検査の内容
→ (例) 運転技能検査の実施課題の追加の要否
- ② 運転技能検査の実施方法
→ (例) 運転技能検査の減点基準（減点点数）の見直しの要否
(例) 運転技能検査の減点項目の追加の要否

① 運転技能検査の内容について

現 状

- 75歳以上の高齢運転者の死亡事故における人的要因は、操作不適が最多（操作不適のうち「アクセル・ブレーキの踏み間違い」が約3割）。【資料4】
- アクセル・ブレーキの踏み間違いによる死亡事故の約7割が、75歳以上の高齢運転者によるもの。【資料4】

踏み間違いによる死亡事故状況(R7)



※ 令和7年末時点において運転技能検査に合格した者

踏み間違い事故となる人的要因

- 高齢運転者によるペダル踏み間違いの人的要因としては、「慌て・パニック」による要因が多い。
- 何らかの危険を認知し、その回避行動をとる際に、慌てたり、パニックに陥ったりすると操作をミスし、事故に発展すると考えられる。

【ITARDA INFORMATION No.124 6頁】

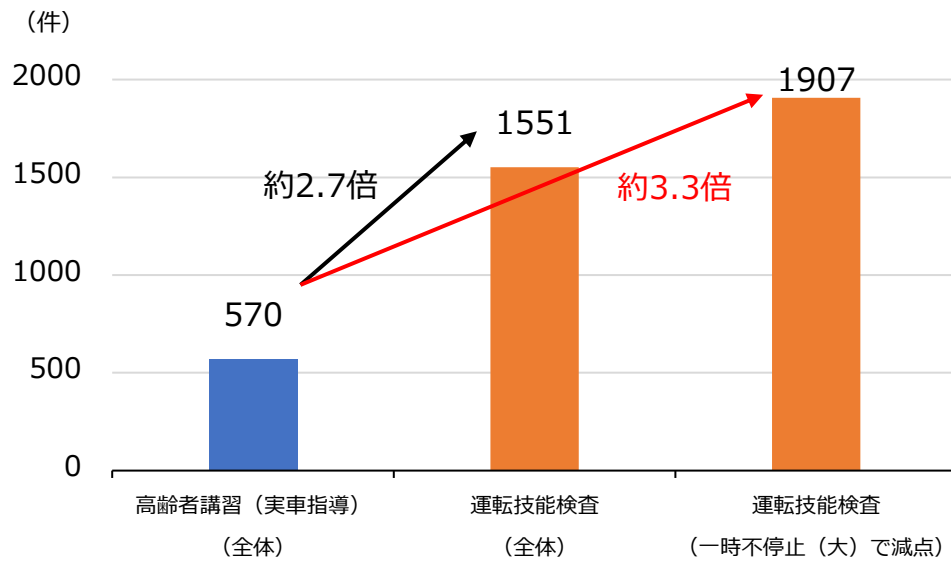
複数の運転操作を一度に行わなければならない状況での課題（例：方向変換、S字・クランク）を追加し、運転技能を確認することが考えられるのではないか。

② 運転技能検査の実施方法について

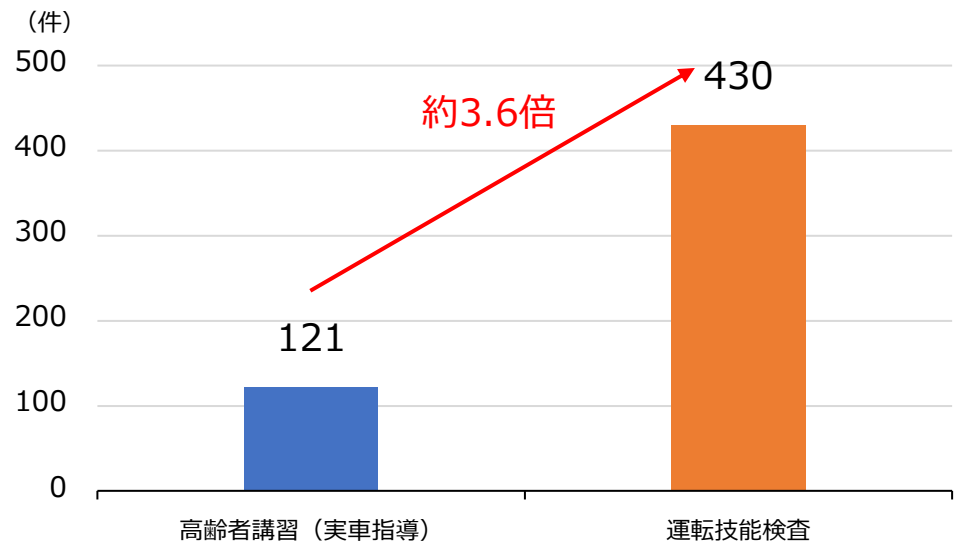
背景

- 運転技能検査を受検し、合格した者のうち交通事故を起こしたものの運転技能検査の減点課題をみると、「一時停止」の課題で減点されていた者が最多（3割以上）。【資料5】
- 運転技能検査を受検した者のうち「一時不停止（大）」で減点されたものの交通事故率は、運転技能検査を受検した者全体の交通事故率よりも高く、高齢者講習の実車指導を受けた者の交通事故率の3倍以上。
- 運転技能検査を受検し、合格した者のうち交通事故を起こしたものの当該交通事故における法令違反をみると、安全運転義務違反が最多で、このうち「前方・左右の安全不確認」によるものは5割程度。【資料5】
- 運転技能検査を受検した者の「安全不確認」による交通事故率は、高齢者講習の実車指導を受けた者の3倍以上。

減点課題別10万人当たりの事故件数



「前方・左右の安全不確認」による10万人当たりの事故件数



現行の減点基準の「一時不停止」の減点点数の引上げや減点項目に「安全不確認」の追加が考えられるのではないかと。